防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報　第 60 号(2012. 02. 29)
事務局川西地区自主防災会

－学んだ子どもが、地域を変える－

三豊市立仁尾小学校
校長　　山下　昌茂

平成２４年２月５日の日曜日、公民館・消防・警察、さらには、丸亀市川西地区自主防災会の方々の御協力を得て、本地区で最初となる家族防災訓練を実施しました。

今回は、将来を背負う子どもたちを主人公とした学校行事として位置付け、１０種の体験学習を仕組みました。また、子どもの学習を地域に発信する場を保障することで、子ども自身の自覚は勿論のこと、保護者・地域の意識改革を試みました。

以下、子どもの発表原稿の一部を紹介します。

「６年生防災学習発表（発表原稿）」

震災をきっかけに、私たち6年生の防災学習が始まりました。

まず 最初に取り組んだのは、6年生の地震や津波に対する意識調査です。アンケートの集計をしてびっくりしました。それは、「仁尾町で大きな地震が起こると思いますか」という質問に対して、28％もの人が自分たちは大丈夫だと思っている実態が明らかになったからです。さらに、起こると思っている人の中にも、ただ何となく不安に思っているだけで、さほど危機感を持っていないと分かりました。

そのため、次の5つについて学習することにしました。

1　地震や津波の起きる原因を知ろう
2　安心・安全な避難場所とは！
3　危険を知って、安心・安全な通学・避難経路（防災マップづくり）
4　家庭における防災対策
5　私たちにできること

1　地震や津波の起きる原因を知ろう

私たちはまず、地震や津波の起こるわけについて考えていきました。

日本は4つのプレートというものがぶつかりあっている所で、とても地震の多いところです。プレートの一方が、もう一方のプレートの下に沈み込み、プレートとプレートがぶつかり合っていることになります。このぶつかり合っているところが耐えきれなくなったとき、プレートが割れ、地震を起こしたり、津波を引き起こしたりします。そして、大地が変化し、私たちの生活に必要な家・道路や豊かな自然が破壊されてしまうのです。最悪の場

合は、かけがえのない命が奪われることになってしまいます。このような地震や津波を人間の力でなくすることはできません。では、どうしたらいいのでしょう。

2　安心・安全な避難場所とは！

そのひと1つは、避難場所についてです。

避難場所については、東北大震災の教訓を生かして、地震後におそってくると考えられる津波のことを最優先に考えました。仁尾町の防災マップなどを見ると、大北・江尻付近が津波による被害が想定されています。深いところでは、2m浸水すると予想されています。では、その他の地区は大丈夫なのでしょうか。インターネットで香川県の防災のページなどを調べてみると、津波被害予測マップは、川や用水路などを逆流する津波は、想定されていません。また、埋め立て地の液状化現象・地盤沈下の影響は考えられていないとのことでした。そのため、東北大震災でもあったように、津波による被害は予測地域以上に広がり、浸水する深さも、さらに深くなることが予想されるのではないでしょうか。

私たちは、夏休み前に家族と相談した避難場所について、そこが本当に安全なのかを家族で話し合った後、全員で検討しました。検討の観点は、①津波以外に、②食料・水が確保でき、調理設備が整っているか、③数日間寝泊りができるか、④通信手段ができているか、④医療設備が整うか、⑤トイレは使用できるか、などです。

私たち家族で考えた避難所の候補には、仁尾中学校・仁尾福祉センター・仁尾支所・文化会館・集会所・親戚の家・仁尾小学校などがあがっていました。仁尾中学校・仁尾福祉会館・文化会館は、津波の影響を受ける可能性があるので、地震直後の避難場所に選んで大丈夫なのか心配になりました。また、各集会所や親戚の家にも、避難場所として適当か、判断しにくいところがありました。津波が仁尾町に到達するまでには、数時間程度の余裕があります。地震後、津波の心配がなくなるまで安心して避難できる場所としたら、仁尾小学校が最適なのではないかというのが私たちの結論です。みなさんは、どう思いますか。最悪の場合を予想し、命を守るために最適な避難場所はどこなのか、もう一度話し合ってみませんか。

3　危険を知って、安心・安全な通学・避難

次に、地震が起こった後、避難場所へ移動する場合の避難経路についてです。避難経路を考えることは、登下校中の地震にもあてはめて考えることができ、安全・安心につながると考えたからです。

このことについては、アンケート調査結果からも課題が見えてきました。

「登下校中に大きな地震がおこりました。そのときあなたはどうしますか。」との質問に対して、ブロック塀や自動販売機などの危険なものから離れる行動をとる人が多いことがわかりました。でも、周りの人に合わせて行動するという人も30％を超えています。とっさの判断を他の人に任せるのではなく、自分自身で正しい判断し、行動できることが大切なのではないか。そのためには、登下校中に使う通学路の危険などをいつも意識し、危険から身を守る行動がとれるようにしなければいけないと思いました。

南海地震単独で起こった時の震度予測は、国土地理院のデータを見ると、場所によって違いますが、震度5弱から震度6弱となっています。これに、東海地震が同時に起こったり、他の場所でも同時に起こったりした場合は、さらに震度が大きくなると考えられます。

仁尾町は、道路幅が狭いところが多く、建物が崩れたり、塀が倒れてきたり、上から落下物があったりしたと

き、その危険から身を守るには、とっさの判断が必要になってきます。また、それらが、「がれき」となって道をふさぐことにもなります。さらに、近くに川や用水路があると津波が逆流してくることも考えられます。土砂崩れ・石垣が崩れる・池の堤が決壊するなど、危険がいっぱいです。

そのために、私たちは、香川県や三豊市で作成された防災・ハザードマップだけではなく、自分たちの目で通学路や避難場所までの経路の危険について調査し、オリジナルの防災マップを作成しました。

調べてみると、危険がいっぱいでした。でも、あらかじめその危険を知っていることは、いざというときその危険から身を守ることができます。また、その危険を地図にマークしていくことで、安全な避難経路を確保することができたと思います。そして今、学習前と比べると、危険を回避する力も少しはついたのではないかと思っています。

4　家庭での防災対策（防災ビファーアフター）

「防災ビフォー・アフター」をテーマに、冬休み、家庭の地震対策について見直しました。

主に取り組んだことは、家具などの転倒防止が多かったです。その対策として、家具転倒防止棒を入れたり、耐震マットを敷いたり、金具で固定するなどが多かったようです。でも、テレビの実験などの映像を見ると、家具転倒防止棒だけでは安全ではなく、滑り止めとセットで使わなければいけないことが必要だとわかりました。一番安全なのはＬ字金具などを使用し、家具を壁などに固定するだと思います。また、そのほかに、部屋全体のレイアウトを大きく変えて、安心・安全に取り組んだ人もいました。

家族の人からは、「東日本大震災後、家庭の危険個所・地震対策について真剣に考えたのは、初めてでした。これをきっかけに、改善できるところをさがして、安心して暮らせる家にしようね。」・「今まで、防災についてあまり意識したことはなかったのですが、今回、子どもと協力しながら家具を固定する作業などをして、あらためて防災について考えていこうと思いました。」・地震対策とはいえ、東京や神奈川の親戚宅と比べると、「この程度では」と考えさせられます。また、「食料の備蓄、生活用品など、避難する際に持ち出せるよう、心がけたいと思います。」「親が忙しく過ごしているので、今回の課題で防災意識も高まり、これをきっかけに、少しでも改善できてよかったです。」などの感想をもらって、私たちの働きかけが、家族の命を守ることことに「つながった」ことをうれしく思いました。

5　わたしたちに出来ること

最後に、私たちの地域で災害が起こったとき、何ができるかを考えました。

９月の保育所・幼稚園との合同防災訓練では、私たち6年生や5年生は、小さい子の手を引いて避難する練習をしました。保育所や幼稚園の年少の子たちは、動きが遅いのでとまどってしまいました。また、中には、待っている間、不安そうに私たちの膝にちょこんと座って待つ子もいました。災害が起こったとき、幼稚園の先生方だけでは対応できないことがたくさんあります。私たちがしっかりと役割を果たし、小さい子を危険から守らなければいけないと感じました。

何よりも避難で大切なことは、地域の一員として何ができるかをしっかり考えていかなければならないと考えました。

今日の防災訓練や私たちの学習や経験・思いが役立てるよう頑張っていきたいと思います。そして、地域を守れる大人になりたいと思います。

最後に、今日、私たちのために、防災訓練の応援をしてくれた、遠く、川西地区自主防災会の皆様・地域の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

以上、防災訓練における子どもの学び・発表を紹介しました。そしてこの発表の後、自治会単位で子どもの引取訓練を行い、徒歩で安全確認しながらの親子下校としました。
これを機会に地域の意識の高まりを期待します。様々なご支援に感謝いたします。

つたじま
蔦島
平成２４年２月８日
三豊市立仁尾小学校
学校だより　NO. 104　＜文責；山下＞

地域と共に　防災訓練

肩シールで地域分け

防災学習発表

炊きだし

本来は運動場ですが、講演の関係で体育館へ避難。

応急処置

おぼれた人を助ける

けが人を運ぶ

火を消す

がれきの下から助ける
水と励まし

土のう

ロープを結ぶ

バケツリレー

備えておく必需品

我が子受取

地域が動いてくれました。地域が助けてくれました。そして、地域が一歩を踏み出しました。

調理室では、朝早くから婦人会を中心とした炊き出しの準備が進められていました。児童玄関前では、地域福祉活動計画実行委員の方々の薪割り姿。運動場へ目を向けると、遠くからの応援団である丸亀市川西地区自主防災会の赤いジャンパー３２名の姿。そして、消防・警察・マスコミの方々。全てがボランティアなのです。学校として、本当に頭の下がる有り難い光景でした。

いつやって来るかも知れない、いや、明日来るかも知れない災害。そして、その際に「自分の命は自分で守る」「仲間と協力」という「心構えと行動」。今の子どもたちに育てておきたい資質・能力です。

大勢の関係団体の皆様のお陰様をもちまして、ねらいの達成に迫る活動となりました。

防災学習の中間報告をする6年生の姿に、感動しました。内容もさることながら、原稿に目を落とさず、できる限り聞き手を見ながらの堂々の発表は、本当に素晴らしいと思いました。ここ1年間で、見違えるほどに成長しました。

－香川県内自主防災組織活動アンケートを集約－

この度香川県の助成を得て、県内の自主防災組織の活動内容を、アンケート形式によって調査を行いました。

昨年の12月上旬に、県内すべての3，000を超える自主防災組織にアンケートを送付して、本年1月31日締め切りとして回収を行いました。

その結果、1，107組織から回答を得ましたので、下記に主要な結果を集約してみます。

---

1. 訓練の実施　　717組織が実施

---

2. 訓練の内容（多い順に）
　1，消火訓練　2，避難訓練　3，担架組立
　4，土のう作成　5，ＡＥＤ

---

3. 資機材の保有　　787組織が保有

---

4. 資機材の内容（多い順に）
　1，バール　2，スコップ　3，ヘルメット
　4，担架　5，のこぎり

---

5. 備蓄関係
　水　・・　１４６組織　　食糧　・・　８７組織
　炊き出し・・　２０８組織

---

6. 要援護者対策
　1，台帳の整備（ＤＢ化）　２２１組織
　2，支援者の確保　２１６組織
　3，要援護者マップの作成　１４３組織

---

7. 年間の活動費
　1，１０万円未満　５１６組織
　2，１０～２０万円　３７組織
　3，２０～３０万円　１１組織
　4，３０～４０万円　１１組織
　5，５０万円以上　８組織

以上がアンケートを実施した結果でありますが、1月31日締め切り後も回答が寄せられており、回収率40％を超える1，200以上の組織からご返答をいただいております。

事務局だより

平成24年　2月

２月は

三豊市立仁尾小学校と丸亀市立城辰小学校の防災訓練を実践してきましたが、共に気持ちよく対応することが出来ましたし、且つ「若さ」をいただくことが出来ました。

アンケートによる調査活動も

大詰めをむかえていますが、ご回答をいただきましたそれぞれの自主防災組織の皆様へ感謝をこめたお礼状と「県全域」と所属する市・町のアンケート結果を郵送させて頂きます。

先月号に原稿を

いただきました、高松市松縄地区自主防災会会長の樋笠富美子さんのコンサートが、高松のアナブキホール（県民ホール）にて２月１８日（土）に開催され、大盛況でした。本当に素晴らしい演奏会でした。

小生（岩崎）も

２月９日（木）鳥取県に招かれ米子市において、講演とその後のシンポジュームのコメンテータとして頑張ってきました。

編集後記

今月の防災減災の輪の原稿は、三豊市立仁尾小学校長山下先生にお願いしました。
合せて県内自主防災組織活動アンケートの集約もけいさいしております。
山下先生誠にありがとうございました。